

Aomori Wood Fan Event

素材を知れば青森が もっと好きになる チーム県産材の「縁むす日」

有限会社 キーポイントホーム／企業組合 県木住

文・写真=小田切 孝太郎
text/photo:Kotaro Odagiri

2024年6月2日、青森市浪岡交流センター「あびねす」の多目的広場にて「縁むす日」が開催されました。
「企業組合 県木住」と「有限会社キーポイントホーム」が中心となった
「チーム県産材」が主催するこのイベントも今回で3回目。
「県産材が好きな人の縁と縁を結ぶ」というイベントのテーマ通り、
飲食店やアクセサリ、雑貨や農産物など青森を愛する17店舗と4台のキッチンカーが集結しました。



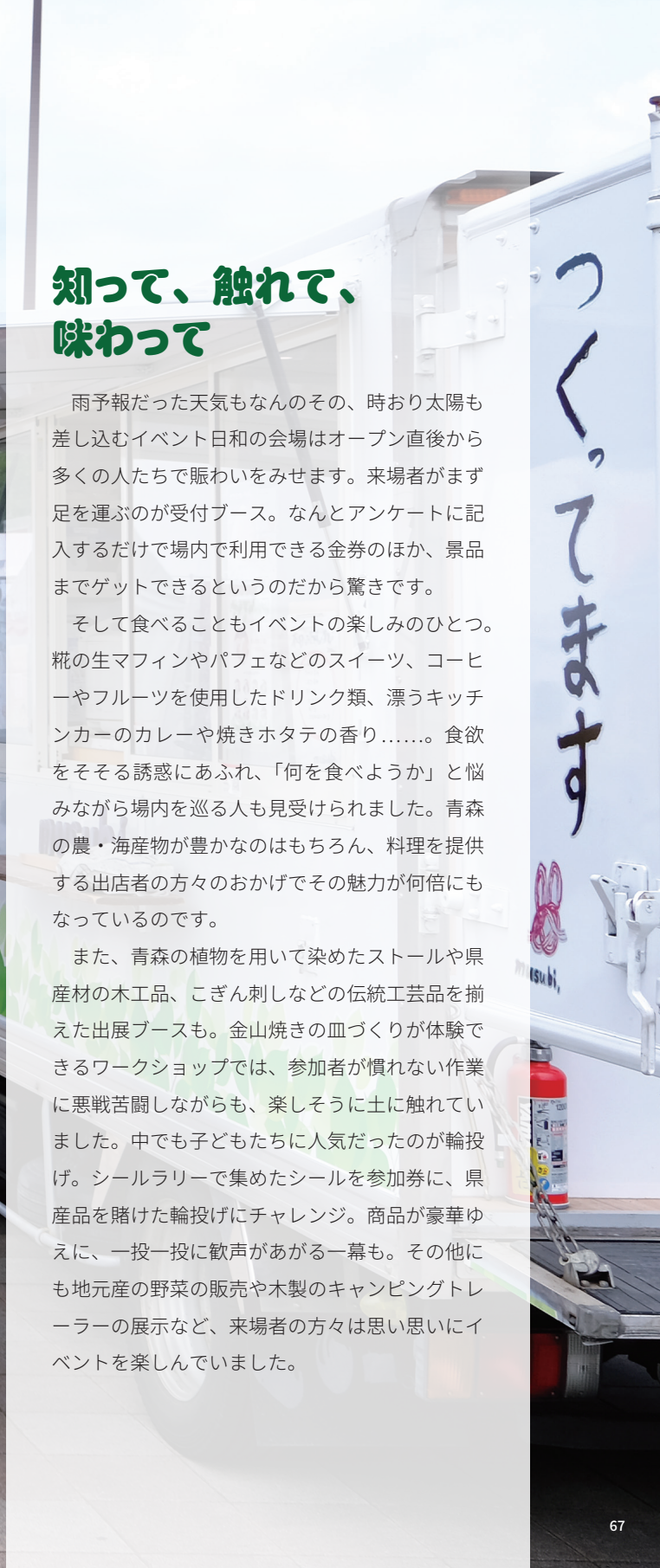


知って、触れて、 味わって

雨予報だった天気もなんのその、時おり太陽も差し込むイベント日和の会場はオープン直後から多くの人たちで賑わいをみせます。来場者がまず足を運ぶのが受付ブース。なんとアンケートに記入するだけで場内で利用できる金券のほか、景品までゲットできるというのだから驚きです。

そして食べることもイベントの楽しみのひとつ。糎の生マフィンやパフェなどのスイーツ、コーヒーやフルーツを使用したドリンク類、漂うキッチンカーのカレーや焼きホタテの香り……。食欲をそそる誘惑にあふれ、「何を食おうか」と悩みながら場内を巡る人も見受けられました。青森の農・海産物が豊かなのはもちろん、料理を提供する出店者の方々のおかげでその魅力が何倍にもなっているのです。

また、青森の植物を用いて染めたストールや県産材の木工品、こぎん刺しなどの伝統工芸品を揃えた出展ブースも。金山焼きの皿づくりが体験できるワークショップでは、参加者が慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、楽しそうに土に触れていました。中でも子どもたちに人気だったのが輪投げ。シールラリーで集めたシールを参加券に、県産品を賭けた輪投げにチャレンジ。商品が豪華ゆえに、一投一投に歓声があがる一幕も。その他にも地元産の野菜の販売や木製のキャンピングトレーラーの展示など、来場者の方々は思い思いにイベントを楽しんでいました。



TEAM KENSANZAI EN-MUSUBI



1. どこへ行っても人気の決め手くん。2. 金山焼がつくれるブースは大人も夢中に。3. 青森県らしくリンゴをはじめとする農産物加工品も多数。4. 樹今井産業が制作した木製のキャーピングシェル。5. 県産材地産地消ガイドブックはバックナンバーも揃えて。6. 豪華賞品のある輪投げは会場内で最も熱気に溢れていました。

地元愛を育んでくれる大切な場

「県産品にこだわる出店者さんが青森にはたくさんいます。これはもっと一般の方々にも知ってほしいと思ったんです」と話すのはキーポイントホーム代表の阿保勝之さん。当初はユーザーや取引先を対象にした感謝祭として始まったイベントでしたが、一般客を受け入れるのは今回が初めて。様々な分野の県産品を楽しんでもらうことが、県産材に興味をもってもらう糸口になると考えています。県木住代表の佐藤さんは「我々のお客さんには青森へ関心を持つ人が多いです。住宅や木材という家づくりにも偏ったものではなく、分野を超えた交流で繋がれば、県産品が好きな者同士で面白いことが生まれるかも」

と話します。今回のイベントでは出店者同士やお客さん同士が、自然と会話をする光景をよく見かけました。それはまさに「縁」が生まれた場面なのかもしれません。縁むす日は地元愛を育んでくれる大切な場になっていることでしょう。

NEXT... EN-MUSUBI

縁むす日 2025
6月1日(日)開催(予定)

【会場】青森市浪岡交流センター「あびねす」多目的広場

2024.6.2 IN APINNESS NAMIOKA



7. 県産材の積み木を楽しむエリアは子どもに大人気。8. なりきりチェンソーマンブースでは林業の魅力を PR。9. あおり藍の自然塗料を試し塗り体験。10. 県内外の出店者が集っているだけあってディスプレイも素敵。11. 人だけでなく犬にも優しい縁むす日。ペット連れのお客さんも多く見られました。12. 農家の方自ら新鮮な農産物を販売。13. 県産材の木工作品は暮らしを豊かにしてくれそう。14. 出店者とお客様の距離が近いのもこのイベントの良さ。

EXHIBITION MEMBERS

[出店メンバー]

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ■ 青森県林政課 | ■ 浅虫コリドー |
| ■ おおわに自然村生ハム工房 | ■ 陶芸教室ちゅうばち |
| ■ One. Natural | ■ あじゃら工房 |
| ■ ほたて漁師おうさか | ■ のみものや わんど |
| ■ (株)今井産業 | ■ Aiha |
| ■ くべる部 | ■ Bambooforest |
| ■ さとのはな | ■ SWEETS CAFE CORORON |
| ■ 岩木山麓ちいちゃん農園 | ■ musubi. |
| ■ ナカナカストア | ■ FREE |
| ■ 杉豊商店 | ■ 移動食堂 味里 |
| ■ Snow hand made | |

ORGANISER & SUPPORT

[企画運営]



- 主催：チーム県産材
(有限会社 キーポイントホーム・
企業組合 県木住)
- 後援：青森県森林組合連合会
- 協力：青森県林政課
青森県木材協同組合

Aomori Wood Reform Event

変化する時代に合わせて、 シニア世代への新提案

2024 住まいとお庭のリフォームフェア
株式会社 今井産業

文・写真=小田切 孝太郎
text/photo:Kotaro Odagiri





製品の比較ができる ショールーム

建材やサッシなどの住宅資材の販売をメインに、設計や庭造りまで住宅に関連したサービスを展開している今井産業。同社のショールーム「虹いろの杜（もり）」には、住宅設備メーカー約30社の商品が常設展示されています。ショールームといえば商品をPRするためにメーカーが個々に設けるのが一般的ですが、ここでは複数の企業の商品を一度に見ることができます。トイレやキッチン、サッシや壁材などメーカーの垣根を超えた、ジャンルごとに分類された展示スタイルは珍しく、消費者目線で設備や商品を比較しやすいショールームになっています。

そのショールームを会場に今井産業が主催する「住まいとお庭のリフォームフェア」は、30年以上にわたり地域の人々に支持されてきた春と秋の恒例イベントです。当日は各メーカーの担当者による商品説明、リフォームの相談会や家づくりにまつわるセミナーのほか、豪華賞品の当たる抽選会や、歴代の社長が仕込むのが定番だというラーメンの振る舞いなども行われました。





シニア世代のニーズは 小さくて機能的な家

耐震や省エネなど、フェアでは毎回テーマが設けられます。今回は「50～60代からの家づくり」がテーマ。シニア層をターゲットに当てたのは今回が初めての試みです。ウッドショック以降、円安などの影響で資材の高騰も続き、2020年に比べると10%以上も住宅コストは上昇し、若い世代が家を建てるのが難しくなっているのが実情です。加えて今のシニア世代の人たちが若い時に建てた家が、リフォームを考える時期に差し掛かっています。子育てを終えて大きな家が必要ない、帰省しても実家に泊まることなく、などの生活スタイルの変貌も手伝って夫婦2人が暮らす家で十分というニーズが高まっています。

会場の中で注目を集めていたのが「1,500万円のセミオーダー住宅」を紹介するブースでした。寒冷地用エアコンや長期優良住宅の要件である耐震等級2級、断熱等級は4級という機能を備えた造りは、シニア世代のニーズに応えた設計です。セミオーダープランなら自分好みの間取りにでき、要望の多い暖かくてランニングコストを抑えた家づくりが実現可能です。

また、近年は相続や税金といった諸問題が家づくりのハードルになっています。今井産業では税理士やファイナンシャルプランナーと連携し、家づくりを進める前に必要な問題解決を図る相談会を実施。住宅に関する総合的なサポート体制を整え、安心して家づくりを進められる環境を提供しています。





in NIJIRO no MORI



暮らすということを サポートしたい

イベントでは同社が開発した世界特許の木質系軽量素材「e・wood+」を用いたトレーラーハウスが公開されたほか、トラックで運搬可能な木造コンテナハウスも販売されました。これらの取り組みは、シニア世代の大きな敷地を有効活用するアイデアとして期待されています。「人生100年時代、第二の人生を楽しむために老化は防げないけど健康寿命を長くすることは可能。家もそのためのひとつのツールに役立ててほしい」と社長の今井公人さん。今後は県産材を活用した店舗施設の普及やガーデニング商品の展開、地域の工務店と連携した住まいのメンテナンスまで、住宅に関する要望に何でも応えられる体制づくりを目指しています。暮らしに寄り沿ってくれるパートナーが身近にいれば、家づくりの選択肢は広がることでしょう。

「e・wood+」で製作された軽量で丈夫なトレーラーハウス。キャンプや車中泊はもちろんテレワーク用のコンパクトオフィスとしても活用できます。



CORPORATE DATA | 会社情報

株式会社 今井産業

青森県平川市新館藤山16-1

Tel:0172-44-2145 Fax:0172-44-2568

hp-info@imaisangyou.co.jp

<https://www.imaisangyou.com/>



日本が誇る名工・ 大室勝四郎が 手掛けた 天然青森ヒバ造り の五重塔

文=佐藤 史隆 写真・資料=合同会社ものの芽舎
text:Fumitaka Sato photo & data:Mononomesha

青森市桑原の青龍寺は、織田隆弘師により1982年に開かれた真言宗の寺院。院内には、青銅座像仏としては日本一の高さを誇る昭和大仏、そして高さ39.25メートルの五重塔が建立されています。この五重塔の初重内部の須弥壇（しゅみだん）には普賢菩薩、観世音菩薩、文殊菩薩、弥勒菩薩の四菩薩、壁面には真言八祖像が奉安。

五重塔の落慶（らっけい）は1996年と木造五重塔としては、京都の東寺、奈良の興福寺、香川の善通寺に次ぐ日本で4番目の高さで、京都以北では最大の木造五重塔です。



五重塔の初重内部



五重塔原寸図を引く大室勝四郎棟梁（青龍寺所蔵）

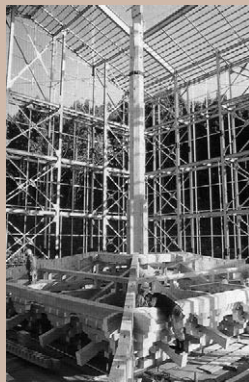
建

築を手がけたのは、大室勝四郎棟梁（1906－1998）が率いる青森市の大室建築です。勝四郎は当時、`西に西岡常一、東に大室勝四郎あり、と全国に腕前が知られた名工でした。青龍寺五重塔の基本設計に参考としたモデルは存在せず、強いて挙げるならば、勝四郎24歳の時に自身で作った模型に似ていると言われています。

なお、大室建築は、江戸時代創業の弘前藩お抱えの宮大工でもありました。天明元年（1781年）から弘前市で三代、青森市に移り現在の九代まで社寺建築を手掛けています。

こ

の五重塔について特筆すべきは、青森の寺院に、青森の大工により、全て青森ヒバを使って建てられたことです。使用したヒバは、東津軽郡蟹田宮林署轄の天然青森ヒバ。中でも建物の中心部の心柱（しんばしら）は、樹齢四百年以上の原木を津軽半島の山から伐り出した貴重なもの。林道のない奥山だったため、ヘリコプターで吊るして運ばれました。五重塔はもともと、釈迦の墓の塔婆が原型とされます。心柱は、その塔婆であり、構造においても意義においても`塔の中心、。塔の倒壊を防ぐ重要な役割を持ちます。青龍寺五重塔は「吊り心柱構造」という造りで、その最下部は礎石に接地していません。塔の四重目と五重目の中間と、五重目の土居上からの二か所で吊っているため、心柱が振り子の役割を果たし、地震や強風などによる揺れを吸収する免震構造となっています。

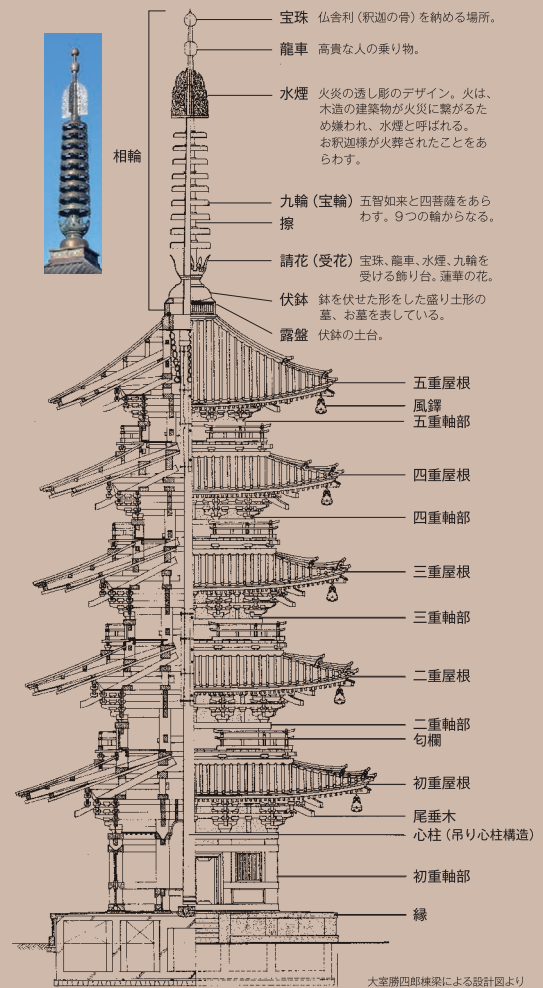


心柱を建てる様子（青龍寺所蔵）

建

立を発願した織田隆弘師は五重塔の完成を見ることなく遷化されましたが、三世の織田隆玄師（1946－2024）が父の遺志を継ぎ建立に尽力しました。生前、隆玄住職は、「青龍寺五重塔は、屋根のラインが実に美しいんです。ここにも大室棟梁の品性があらわれています」と話していました。五重塔の前には、大室勝四郎棟梁の銅像が立っています。共に苦労をしながら、一大霊場づくりに取り組んできた青龍寺の感謝の念は今もそこに。

住職たちの思い、大室建築の技、そして青森ヒバの魅力が結集した青龍寺五重塔。50年後、100年後、200年後……時が流れるほどにその凄さが増してくることでしょう。



大室勝四郎棟梁による設計図より

落 慶：平成8年10月10日
資 材：天然青森ヒバ(約2,800石)
高 さ：39.25m
間 口：四間四面
安 置 仏：普賢菩薩、観世音菩薩、文殊菩薩、
弥勒菩薩、真言八祖像
設計施工：株式会社 大室建築



青銅座像では「日本一の大きさ誇る青龍寺の「昭和太公」

昭和太公 青龍寺

青森市大字桑原山崎45
Tel:017-726-2312 Fax:017-726-2124
<http://showa-daibutu.com/>



株式会社 大室建築

青森市岡造道3丁目7番5号
Tel:017-718-8018 Fax:017-718-8018
<https://www.oomurokentiku.com/>

